

と見え、又同書に引ける一品集中の幽州紀聖功碑（二〇三）に

公前後受降三萬人、特勒二人可汗妹一人大都督外宰相四人、其他裨王騎將不可備載

と記さるゝものと疑も無く同一事件にして、従て二年冬三月春の此の記事は、張仲武が其の弟仲至をして那頡を破らしめたる時の事か、若しくは之に引續きたる時の事を記したるものなるや疑無し、而して傳の記述の方法は、勿論事件の起りし年月の順序に従ふを以て原則とするものなれば、若し茲に記さるる年月に就きて信を措かば、二年五月噶沒斯等の歸降の前に記されたる二年冬三月春に於る龐俱遮・阿敦寧二部以下の幽州に降りし事實は、之を二年春三月のことと見るを以て適當の解釋とするを得べし、思ふに「秋頻劫東陝已北、……二年冬」迄は誤りて此の場所に入れられしものにして、實は「烏介諸部猶稱十萬衆、駐牙大同軍北閭門山、時會昌二年、三月春廻鶻特勒龐俱遮・阿敦寧二部……相次降於幽州、詔配諸道」と續くべきものに外ならざるべし、従て張仲武が那頡の衆を破り、回鶻の勢を挫きたるは、之を會昌二年三月、若しくは其の以前之と極めて近接したる時の事と見て、少くとも解釋の方法上より過なかるべきを信ず、而して斯く考へ定めたる結果を一面事實の上より考察するも、那頡啜が張仲至に破られ、逃れて烏介可汗に殺さるゝや、此の時即ち三月、其の部下なりし特勒將軍等多く唐に降り、回鶻の勢大に殺がれしかば、五月に至りて噶沒斯等も更に振武に至りて降附したるものと見るは、自然の情勢として認むるを得べし、されば通鑑が之を會昌二年五月噶沒斯の降附を記したる後の事實と見たるは、恐らく正鶻を得たるものに非るべく、新唐書回鶻傳が何等の考慮を加へずして、全く舊唐書の上に約筆を試みたと共に、據る可きに非ず。